

スポーツフィールド (TYO: 7080)

2024年12月期1Q決算は高成長継続。売上高・利益ともに過去最高を更新。

◇2024年12月期1Q決算：高成長続く。

スポーツフィールドが2024年5月13日引け後に発表した2024年12月期1Q（1-3月）決算は引き続き好決算だった。売上高は11.0億円（前年同期比+19%）、営業利益は4.0億円（同+27%）、経常利益4.0億円（同+27%）、親会社株主に帰属する当期純利益は2.5億円（同+25%）となった。売上高、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益のいずれもが過去最高を更新した。主要3事業がいずれも増収しており、人員増強・広告宣伝強化などの施策を進めつつ高い利益成長を生み出している。これは、新卒を中心とした人財需要が堅調であり、当社はこれを的確にビジネスにしていることを示している。

通期会社予想に対する進捗率は、売上高29%、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益それぞれ44%程度と高水準である。

◇2024年12月期会社予想：変更なし。

同社は2Q累計の予想の開示はない。通期については、1Qの進捗率は高水準ではあるものの、期初に示された予想が据え置かれている。

一株配当は2024年3月末に実施された株式分割を考慮し期末配当16円とされており、変更はない。

KPIについては後述するが概ね順調である。

◇株価動向と今後の注目点：

4月には600円台後半から700円台半ばで推移してきた株価は、1Qが好決算であったことを好感し850円台まで上昇したものの、52週高値である947円までには届かず、その後ギリ安で700円台前半に戻っている。ただし、4月の安値（=年初来安値）を下回るには至っていない。

これは、株式市場が1Qの好業績および2024年3月から配当開始したことを評価しつつも、通期業績の上方修正および中期成長ポテンシャルに関する手がかりを待っていると理解できる。

同社の業績の季節性を踏まえると、2Qには今期業績の着地についての確度が高まり、3Qごろからは来期の業績を占う受注状況が明確になるはずである。これにつれて、今期の業績の上振れ余地、および来年度以降を対象とする次期中期経営計画の方向感が明らかになれば、現在10倍を下回る予想PERには再評価の余地が大きいと思われる。その際には52週高値の947円、および上場来高値の1098.75円が意識されるのではないかと。

なお、東証グロス市場からのプライム市場へのステージアップの見通しおよび計画も注目点である。

1Q決算アップデート

サービス

2024年6月18日

株価(6/17)	791円
52週高値/安値	947/603円
1日出来高(3ヶ月)	20千株
時価総額	58億円
企業価値	41億円
PER(24/12予)	8.2倍
PBR(23/12実)	4.2倍
予想配当利回り(24/12)	2.4%
ROE(23/12実)	56.1%
営業利益率(23/12実)	25.4%
ベータ(5年間)	N/A
発行済株式数	7.36百万株
上場市場	東証グロス

株価パフォーマンス



%	1ヶ月	3カ月	12カ月
株価	3.8	-7.8	1.0
相対株価	1.7	-10.0	-20.4

注目点

体育会学生およびスポーツ経験学生の就職支援事業の深掘り、多角化事業の展開、高い営業利益率と高いROEの維持・向上、グロス市場からの上場市場変更、株式流動性の改善とオーナー等保有株式の売却

当レポート(Company note)は、スポーツフィールドの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレームを参照ください。

目次

サマリー	1
主要財務データ	2
2024年12月期1Q決算	3
2024年12月期会社予想	10
株価動向と今後の注目点	11
業績推移	12
参考情報	14

主要財務データ

財務ハイライト

決算年月		2017年12月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月
売上高	千円	1,106,727	1,516,370	1,917,813	1,883,269	2,130,256	2,866,214	3,418,218
経常利益	千円	60,171	113,916	192,045	32,016	▲35,298	634,239	869,134
当期純利益	千円	41,031	72,809	132,965	17,055	▲79,133	412,318	608,172
資本金	千円	10,300	10,300	92,680	92,712	92,869	93,079	93,513
発行済 株式総数	普通株式 A種株式 株	20,000 400	20,400 -	881,600 -	882,560 -	897,400 -	1,808,080 -	3,681,440 -
純資産額	千円	59,396	132,205	429,932	446,826	368,007	780,524	1,389,498
総資産額	千円	418,961	735,377	1,106,275	1,488,182	1,540,544	2,127,327	2,310,947
1株当たり純資産額*1	円	9.10	20.25	60.96	63.29	51.27	107.94	188.74
1株当たり当期純利益*1	円	6.29	11.16	20.34	2.42	▲11.10	57.22	83.73
自己資本比率	%	14.2	18.0	38.9	30.0	23.9	36.7	60.1
自己資本利益率	%	100.6	76.0	47.3	3.9	▲19.4	71.8	56.1
営業キャッシュフロー	千円	108,208	82,994	198,181	▲88,974	53,789	609,537	448,887
投資キャッシュフロー	千円	▲32,962	▲75,085	▲24,984	▲32,077	▲67,943	▲7,100	▲68,115
財務キャッシュフロー	千円	▲82,366	191,526	149,891	396,399	18,139	▲120,077	▲371,385
現金及び現金同等物の期末残高	千円	163,792	363,227	686,315	961,663	965,648	1,448,007	1,457,392
従業員数	名	118	164	201	233	266	242	272

*1：2019年10月4日付で普通株式1株につき40株、2022年7月1日付、2023年4月1日付、2024年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2017年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算出してあります。

出所：同社資料より



2024年12月期1Q決算

スポーツフィールドが2024年5月13日引け後に発表した2024年12月期1Q（1-3月）決算は引き続き好決算だった。

売上高は11.0億円（前年同期比+19%）、営業利益は4.0億円（同+27%）、経常利益4.0億円（同+27%）、親会社株主に帰属する当期純利益は2.5億円（同+25%）となった。売上高、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益のいずれもが過去最高を更新した。主要3事業がいずれも増収しており、人員増強・広告宣伝強化などの施策を進めつつ高い利益成長を生み出している。これは、新卒を中心とした人財需要が堅調であり、当社はこれを的確にビジネスにしていることを示している。

通期会社予想に対する進捗率は、売上高29%、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益それぞれ44%程度と高水準である。

四半期別業績推移と季節変動について

- 売上高、営業利益ともに、第1四半期の過去最高を更新
- 人員体制強化や戦略的な広告投資など、成長に向けた投資により費用が増加したものの、売上高の成長率が費用の増加率を上回り、利益は過去最高を更新



出所：同社IR資料より

2024年12月期 第1四半期決算概要

(百万円)	第1四半期		前年同期比	
	2024年12月期	2023年12月期	増減額	増減率
売上高	1,102	919	+182	+19.9%
新卒者向けイベント	713	578	+135	+23.3%
新卒者向け人財紹介	139	92	+46	+50.5%
既卒者向け人財紹介	215	213	+2	+1.1%
その他売上	32	34	▲1	▲3.9%
営業利益	402	315	+87	+27.7%
営業利益率	36.5%	34.3%		+2.2PP
経常利益	402	314	+87	+27.7%
経常利益率	36.5%	34.3%		+2.2PP
親会社株主帰属当期純利益	258	205	+52	+25.7%

- 売上高は、主要3事業すべてにおいて第1四半期での過去最高を更新した
- 営業利益、経常利益ともに過去最高となり、営業利益率、経常利益率についても前年同期実績を上回り、過去最高となった
- 既卒者向け人財紹介事業は前年同期実績横ばいとなったが、4月は過去最高の売上を見込む

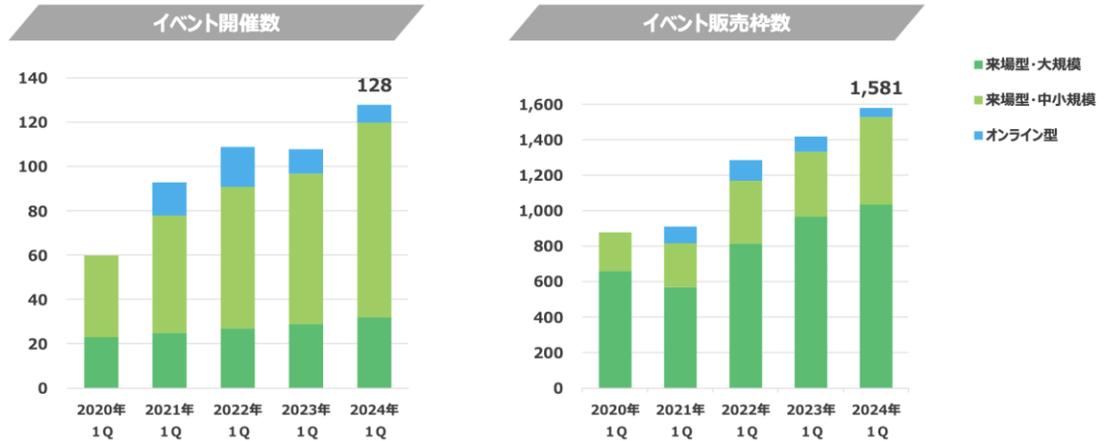
出所：同社IR資料より



2024年12月期1Q決算

新卒者向けイベント事業

2024年12月期1Q売上高は7.1億円（前年同期比+23%）だった。企業のイベント出店ニーズが強く、イベント開催数、イベント販売枠数いずれも前年度を上回っている。なかでも来場型イベントが伸びている。



2020年実績：2021年卒・2022年卒向け | 2021年実績：2022年卒・2023年卒向け
2022年実績：2023年卒・2024年卒向け | 2023年実績：2024年卒・2025年卒向け | 2024年実績：2025年卒・2026年卒向け
スポナビのみ、スポチャレのイベントは含まず

出所：同社IR資料より

なお、2026年3月卒向けイベント事業の受注は2Qに本格的に始まると想定される。今期末から来期に向けての業績の方向感を示す先行指標であり、2Q以降の開示が注目される。



2024年12月期1Q決算

新卒者向け人財紹介事業

2024年12月期1Q売上高は1.39億円（前年同期比+50%）と好調だった。

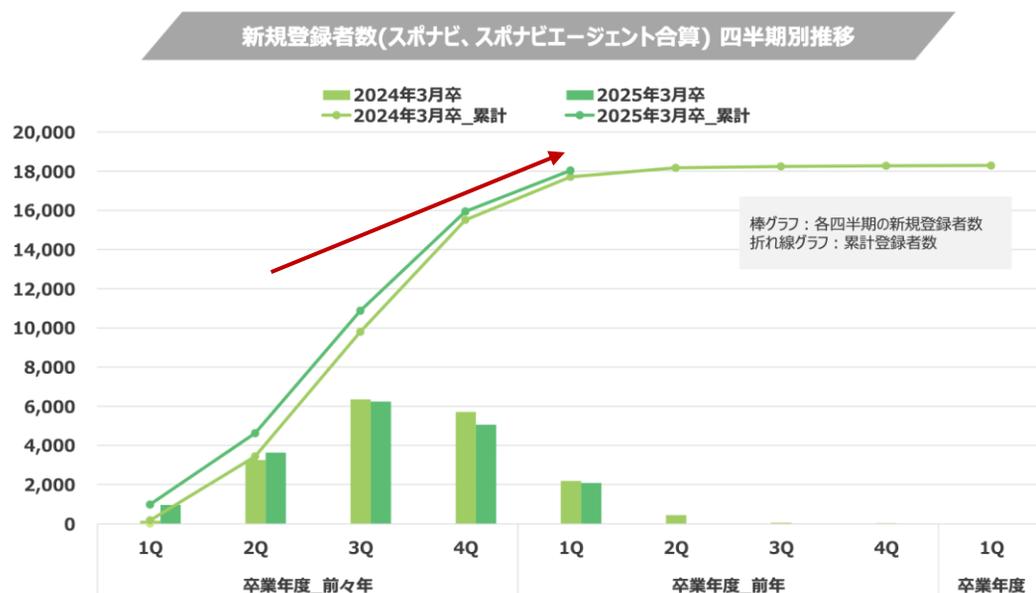
まず事業活動の母集団となるスポナビ登録者数（体育会学生の登録者数）は横ばい気味で、足元では2025年3月卒生が2024年3月卒生に対して前年同期比で微増とのことである。これに対して同社は人員体制を強化し、登録者数の再拡大を進めている。



*スポナビ2024登録者数の開示数値は、2025年以降卒業学生等を含む全登録者数から、2023年12月期において企業への紹介対象となる2024年3月卒学生だけの登録者数に変更

出所：同社IR資料より

(参考) 2025年3月卒 新規登録者数 四半期別推移



出所：同社IR資料より



2024年12月期1Q決算

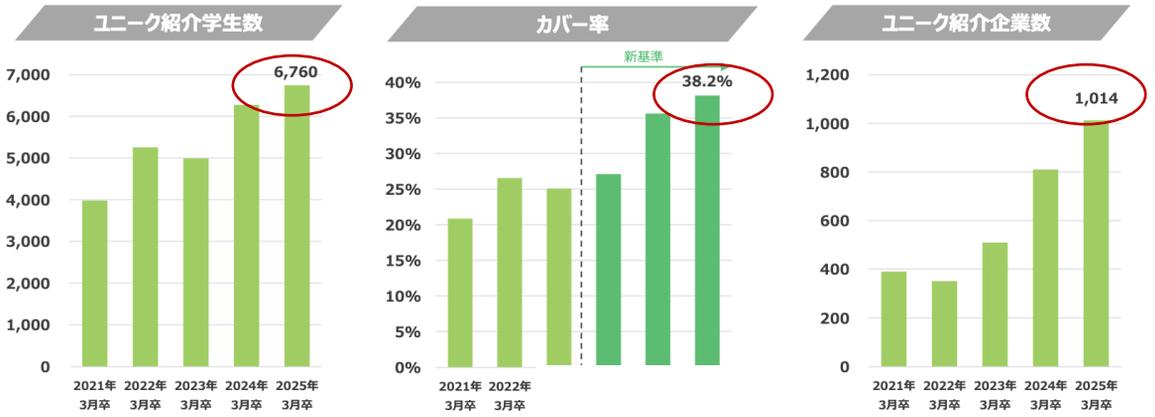
新卒者向け人財紹介事業

次に、売上高につながるKPIを見るといずれも堅調に推移しており、登録者に対してしっかりした営業サポートを進めていることがうかがえる。

まず、2025年3月卒ユニーク紹介学生数は、採用・就職活動の早期化に対応し、前年同期実績を上回っている。

つぎに、スポナビ登録者に占める同社のアナログ的關係を構築できている（営業）カバー率も前年同期比で改善している。

さらに、ユニーク紹介企業数は企業の旺盛な新卒採用ニーズを取り込んだ結果、前年同期実績を上回っている。

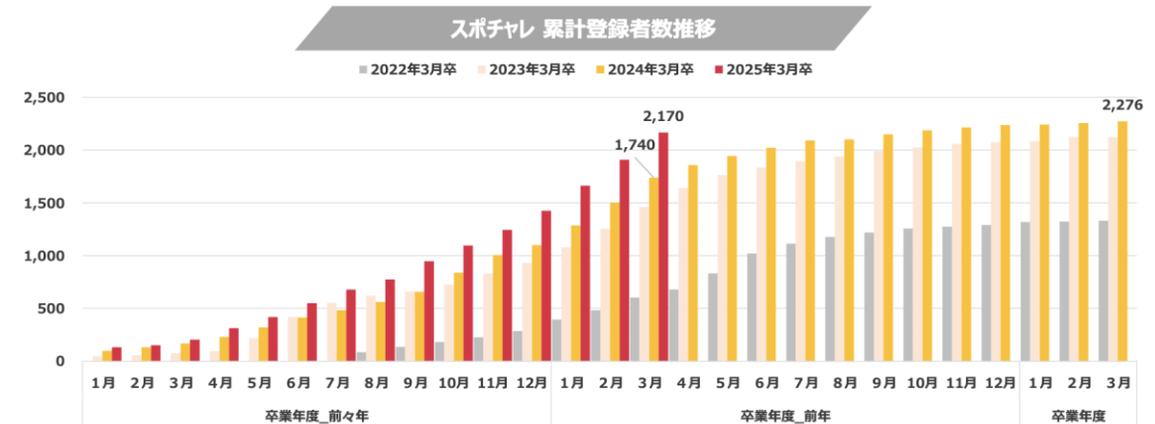


*KPI 第1四半期（卒業前年3月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）
 *ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数 | ユニーク紹介企業数：学生に
 *カバー率：登録者の内、面談対応により、アナログ關係が構築できている登録者の比率（算出方法：ユニーク紹介学生数/スポナビ登録者数）
 *スポナビ2024登録者数の開示数値は、2025年以降卒業学生等を含む全登録者数から、2023年12月期において企業への紹介対象となる2024年3月卒学生数のみの登録者数に変更

出所：同社IR資料より

こうした活動の結果、1Qから大幅な増収を実現している。さらに、スポーツ経験者を対象とするスポチャレも順調に登録者を伸ばし、増収に寄与している。

今後は、企業の旺盛な採用意欲を反映し、2Qから3Qにかけて売上高が息切れなく積み上がっていくことが期待されるため、大いに注目したい。



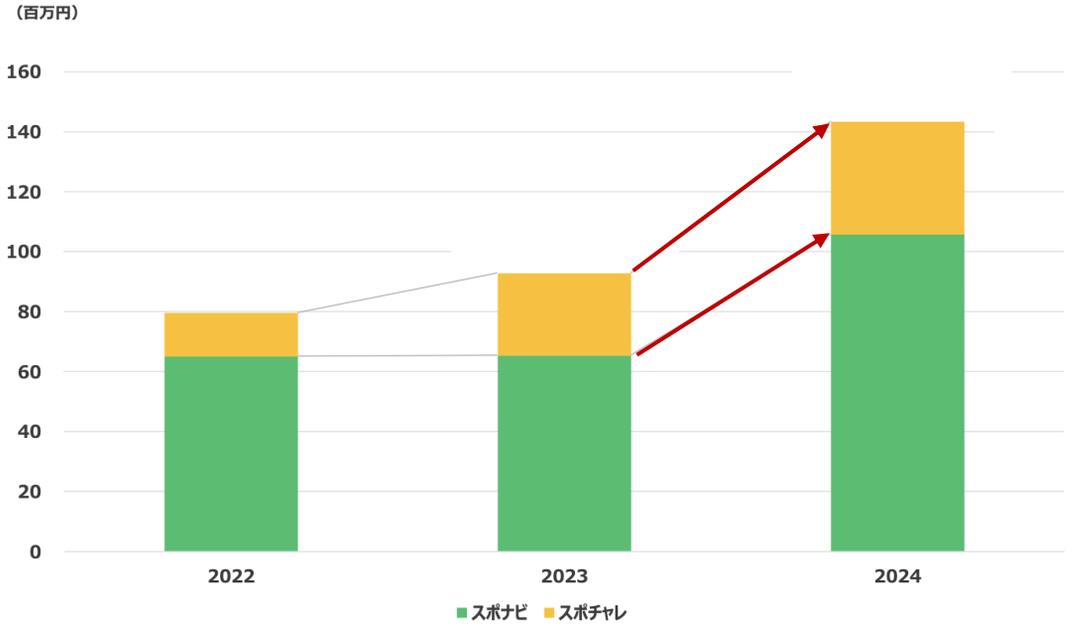
出所：同社IR資料より



2024年12月期1Q決算

新卒者向け人財紹介事業

第1四半期実績



出所：同社IR資料より



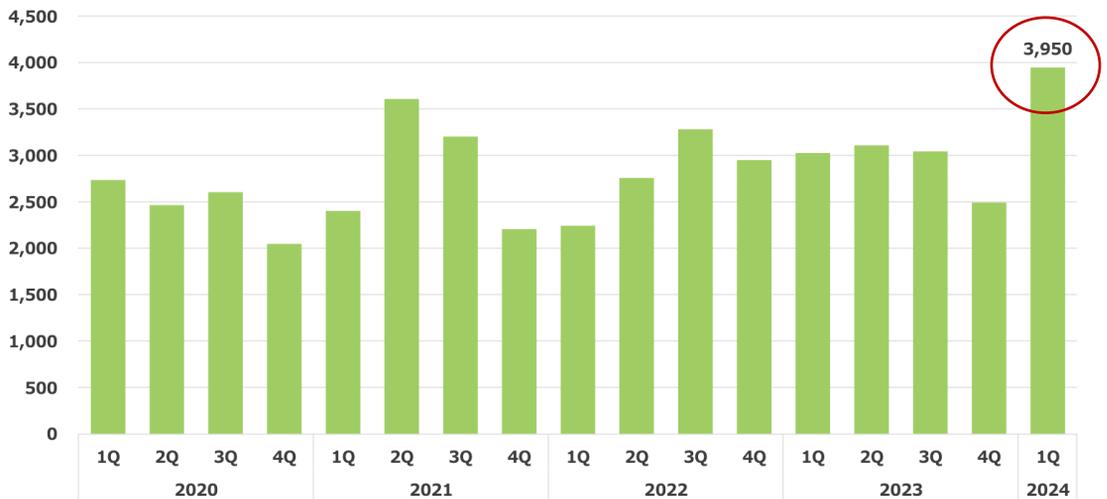
2024年12月期1Q決算

既卒者向け人財紹介事業

2024年12月期1Q売上高は2.15億円（前年同期比+1%）と微増にとどまった。ただし、先行指標となるユニーク紹介人財数、ユニーク紹介企業数ともに前年同期を上回っており、さらに決算説明資料によれば2Qに含まれる4月の同売上高は過去最高になるとのことであり、同事業も総じて順調と言える。

なお、スポーツ関連企業に特化した就職・転職情報サイトであるスポジョバからの人財紹介案件の増加も寄与している。

スポナビキャリア・スポチャレ転職 登録者数推移



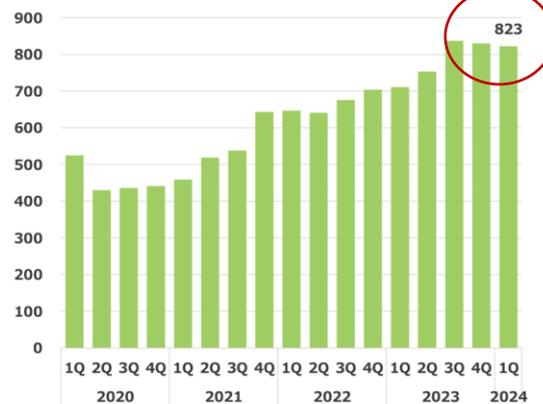
*2020.4Qまでは、スポナビキャリアのみ 2021.1Qより スポナビキャリア、スポチャレ転職 合算

出所：同社IR資料より

ユニーク紹介人財数



ユニーク紹介企業数

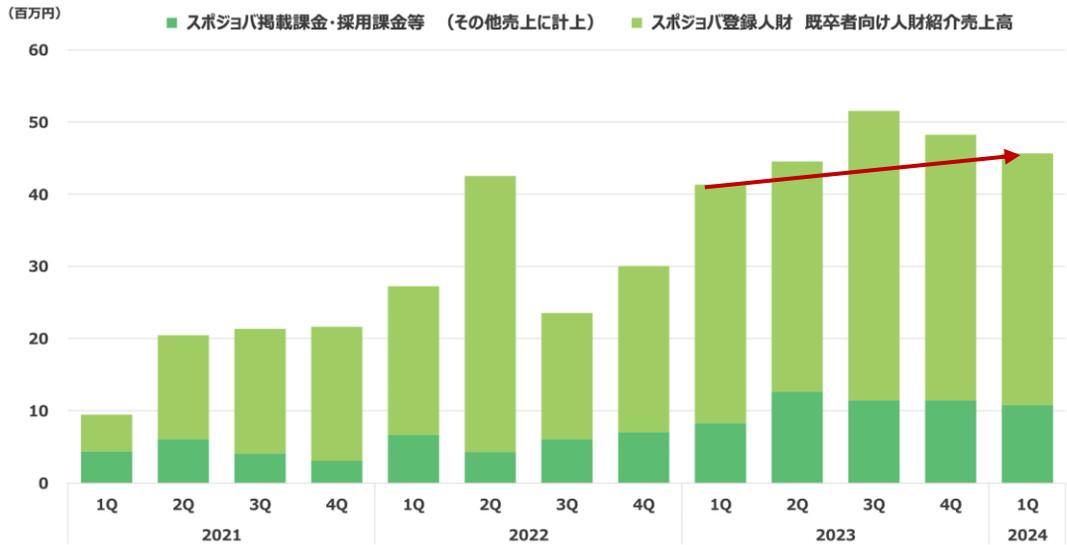


*ユニーク紹介人財数：企業に紹介した重複しない人財数 | ユニーク紹介企業数：求職者に紹介した重複しない企業数

出所：同社IR資料より



(参考) スポジョバ 四半期別売上高推移



出所：同社IR資料より



2024年12月期会社予想

2024年12月期会社予想：変更なし

通期会社予想に対する1Qの進捗率は、売上高29%、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益それぞれ44%程度と高水準である。

しかし期初に示された予想が据え置かれている（2Qに関する会社予想は非開示）。また、一株配当は2024年3月末に実施された株式分割を考慮し期末配当16円とされており、変更はない。

先に見たように、KPIはおおむね堅調に推移していることから、2Q以降通期の着地が現在の会社予想を超過していくのか注目を集めそうである。

2024年12月期 通期業績予想サマリー

売上高	3,749百万円	前期比+331百万円
営業利益	903百万円	前期比+33百万円
経常利益	902百万円	前期比+33百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	586百万円	前期比▲21百万円

出所：同社IR資料より



株価動向と今後の注目点

4月には600円台後半から700円台中ばで推移してきた株価は、1Qが好決算であったことを好感し850円台まで上昇したものの、52週高値である947円までには届かず、その後ギリ安で700円台前半に戻っている。ただし、4月の安値（=年初来安値）を下回るには至っていない。

これは、株式市場が1Qの好業績および2024年3月から配当開始したことを評価しつつも、通期業績の上方修正および中期成長ポテンシャルに関する手がかりを待っていると理解できる。

同社の業績の季節性を踏まえると、2Qには今期業績の着地についての確度が高まり、3Qごろからは来期の業績を占う受注状況が明確になるはずである。これにつれて、今期の業績の上振れ余地、および来年度以降を対象とする次期中期経営計画の方向感が明らかになれば、現在10倍を下回る予想PERには再評価の余地が大きいと思われる。その際には52週高値の947円、および上場来高値の1098.75円が意識されるのではないかと。

なお、東証グロース市場からのプライム市場へのステージアップの見通しおよび計画も注目点である。



業績推移

通期業績推移

(百万円)

決算期	2019/12期	2020/12期	2021/12期	2022/12期	2023/12期	2024/12期
連結・日本基準	(上場)					会社予想
【損益計算書】						
売上高	1,918	1,883	2,130	2,866	3,418	3,749
営業利益	194	16	-32	637	869	903
経常利益	192	32	-35	634	869	902
税金等調整前当期純利益	192	32	-81	634	869	
親会社株主に帰属する純利益	133	17	-79	412	608	586
【貸借対照表】						
資産合計	1,106	1,488	1,541	2,127	2,311	
負債合計	676	1,041	1,173	1,347	921	
純資産合計	430	447	368	781	1,389	
借入金合計	334	731	749	630	259	
【キャッシュ・フロー計算書】						
営業活動によるキャッシュ・フロー	198	-89	54	610	449	
投資活動によるキャッシュ・フロー	-25	-32	-68	-7	-68	
財務活動によるキャッシュ・フロー	150	396	18	-120	-371	
フリーキャッシュフロー	173	-121	-14	602	381	
現金及び現金同等物の期末残高	686	962	966	1,448	1,457	
【経営効率】						
売上高経常利益率	10.0%	1.7%	-1.7%	22.1%	25.4%	24.1%
ROA	14.4%	1.3%	-5.2%	22.5%	27.4%	
ROE	47.3%	3.9%	-19.4%	71.8%	56.0%	
【一株指標】 単位：円						
EPS (株式分割等調整後)	41	5	-22	114	167	162
BPS (株式分割等調整後)	122	127	103	216	377	
DPS (株式分割等調整後)	0	0	0	0	33	32
【従業員数】						
連結従業員数	201	233	266	242	272	

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成

一株あたり指標であるEPS、BPSは2023年3月に実施された1：2の株式分割の効果を遡及して計算。

なお2024年3月末を基準として1:2の株式分割を予定しているが、上記のEPS、BPS、DPSには反映していない。

業績推移

四半期業績推移

(百万円)

	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2	2023 Q3	2023 Q4	2024 Q1
売上高	774	862	609	619	919	971	698	829	1,102
新卒者向けイベント売上高	507	267	61	292	578	267	64	455	713
新卒者向け人財紹介売上高	79	290	354	119	92	426	396	115	139
既卒者向け人財紹介売上高	158	277	164	176	213	247	204	228	215
その他	28	26	29	31	34	30	32	30	32
営業利益	232	301	69	32	315	312	84	156	402
経常利益	231	301	68	31	314	312	84	156	402
親会社株主に帰属する純利益	148	196	45	23	205	202	53	148	258

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成



会社概要

社名	株式会社スポーツフィールド			
代表者	代表取締役 篠崎 克志			
設立年月日	2010年1月			
本社所在地	東京都新宿区市谷本村町3-29FORECAST市ヶ谷4F			
資本金	93,513千円（2023年12月末現在）			
役員構成	代表取締役	篠崎克志	取締役(社外)	小林明彦
	取締役副社長	伊地知和義	取締役(社外)	河村直人
	専務取締役	加地正	常勤監査役(社外)	大隅靖朗
	専務取締役	森本翔太	監査役(社外)	山本憲司
			監査役(社外)	田島潤一郎
事業内容	新卒事業部門：イベント事業、人財紹介事業 中途事業部門：人財紹介事業			
売上規模	3,418,218（千円）〔2023年12月期〕			
従業員数	272名（連結：2023年12月末現在）			
拠点	東京本社、札幌オフィス、仙台オフィス、千葉オフィス、横浜オフィス、東海オフィス、京都オフィス、大阪オフィス、神戸オフィス、岡山オフィス、広島オフィス、九州オフィスの12拠点 + 7サテライトオフィス			
総資産	2,310,947（千円）〔2023年12月末〕			



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの調査によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。